

東北数学教育学会創立五十周年記念

祝 辞

日本数学教育学会会長 藤井 斉亮

東北数学教育学会が創立 50 周年を迎えられますことを心からお祝い申し上げます。東北数学教育学会は、50 周年記念事業として記念式典・奨励賞の創設・学会ロゴマークの制定等に取り組んでこられました。とりわけこれまで刊行されてきた年報を学会誌に改称し、数学教育学の充実と発展に向けて大きく第一歩を踏み出されたことに心から深く敬意を表します。

東北数学教育学会は、会則によると、「数学教育の基礎的・科学的研究に寄与することを目的」とし、昭和 43 年（1968 年）10 月 17 日に発足しています。当時は、いわゆる「現代化」と称される教育改革運動の真っ只中で、昭和 43 年には算数に集合など新規の内容を盛り込んだ小学校学習指導要領が改訂されています。翌年には中学校、翌々年には高等学校の学習指導要領がそれぞれ改訂されています。教育現場の先生方は、これまでにご自身が見たこともない、聞いたこともない内容を教えなければならず、困惑したと聞いています。その一方で、未知の教材やその価値への関心が高まり、各地で研究会が盛んに行われたと聞いています。東北数学教育学科会はそのような時代背景・状況の中で発足したわけでは、現代化当時、授業を受けた児童生徒達はどう受け止めたのでしょうか。「よくわからなかったが、何故か大変おもしろかった」「授業に熱気があった」という声を聞きます。先生方の熱意、昂揚感が児童生徒に率直に伝わったことが窺えます。実は、これらの「声」

の主は私の周りにおられる年齢でいうと 50 歳後半の数学教育学の研究者の方々です。数学教育学の研究者の中には、現代化当時に受けた授業に刺激され、大学では数学を専攻し、大学院修士課程博士課程では数学教育学を専攻して大学教員になった方々が何人もおられます。その年代だけ、数学教育学研究者の人数が多いのです。当時の現場の先生方の熱意が、わが国の数学教育学者を多く産み出したと言えます。

平成から令和になり、学習指導要領も小学校については昭和 22 年、26 年の「試案」の後、昭和 33 年、43 年、52 年、平成元年、10 年、20 年の全面改訂に続く 7 回目の全面改訂が平成 29 年に行われました。令和元年の今、新しい学習指導要領に基づいた教科書が編集を終え、教育現場に配布されるどころです。現代化当時ほど新規の教材が盛り込まれている訳ではないですが、小中高を通して「データの活用」領域が新設されています。全校種に「見方・考え方」が改めて明示されていることも特徴的です。教材研究において、また、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善において東北数学教育学会はこれまで以上により一層重要な役割を担うこととなります。

東北数学教育学会が産声をあげてから半世紀、その間に培った基礎的・科学的研究のさらなる普及と発展のために、貴学会がより一層飛躍されることを祈念申し上げ、お祝いの言葉といたします。